

第341回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成29年9月25日(月)午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員 8人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
山本 健一	委員	中島慎一郎	委員
原田 健一	委員	大久保千春	委員
田村 明子	委員	柳川かおり	委員

会社側出席者

代表取締役社長	務台 昭彦
常務取締役 編成担当	竹石 尚史
取締役報道制作局長	永田 広道
編成局長兼番組審議会事務局長	増子 隆
報道制作局制作部長	羽田 朗
報道制作局 合評番組プロデューサー	芝 至
事務局	山崎 学 吉田 康宏

4 議 題

1) 番組合評

「T e N Y報道特番

記憶 その先へ 中越沖地震から10年」

[放送：平成29年7月16日（日）15:00-15:55]

(説明：番組プロデューサー 芝 至)

2) 会社報告

①7・8月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)

②講じた措置、公表など定例報告等 (報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要

会社側からは2007年の中越沖地震から10年が経つ中で震災の記憶を風化させてはならない、教訓を今後を活かしてこれからの防災について考えるようなきっかけとなるような番組にできればと企画した。ひとつのテーマに絞って深く掘り下げて番組を作る方法もあったが、今回は当時中越沖地震で問題となったテーマを振り返りながら震災10年、そしてタイトルにも付けた「その先」について考えてもらえるような番組構成にした、という説明があった。

(委員の意見)

- 見終わった後に頭に残るものが多い番組だった。
- 内容や情報が多岐に渡って入っていたが、ひとつひとつをもう少し掘り下げても良かったのではないか。
- 生放送という形式で番組化したことは有意義であった。

- 地方の細かい地震の情報があり、身近に危機感を考える作りとなっていたことはためになった。
- 本来はシリーズ化して丁寧を作る方が良いと思うような内容を1時間で作ったために、各テーマのバランスを取りすぎて深く掘り下げたテーマがなかったのは残念。
- 今後も見据えてということで若い小川麻琴さんを出演させたという意味では適任であったと思うが、テーマによっては識者などを出演させても良かったのではないか。
- 今まで色々なテレビ局で復興をテーマにする番組を見させられすぎて、どこかで見たような内容に感じ、心を揺さぶられるような話がなかった。
- 記憶という観点から市民が愛していた建造物が地震によって無くなり、その後どのように変わったのかということにも触れたら良かったのではないか。
- この番組が発生から1年目の番組であれば良いと思える番組だが、10年の節目であれば10年間の取材を基にした内容を単なる報道面だけでなく、伝えていくべきである。
- 生中継で出演した小川麻琴のコメントが社交辞令的に聞こえたことが番組を薄味にしたような気がする。
- 生放送や生中継など番組作りに苦労した感が見えてくる番組であったが、結果的に何を伝えたかったのかが見えなかった。
- 地震発生時と現在は描かれていたが、10年間の間の減災や復旧についての話が描かれていなかった。
- 構成は起承転結となっていたが、タイトルにある「結」の部分である「その先」が描き切れてなく、番組全体にぼやけた感じを与えたと思う。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

7月 …… 87件

8月 …… 96件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成29年7月24日)から、昨日(平成29年9月24日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回第340回審議会では、「夕方ワイド新潟一番 ガタトピSPECIAL 夢へのターン ボートレーサー島倉都の挑戦」を審議いただきました。

委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第341回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・7月、8月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・民間放送新聞(7/23、8/3、8/23、9/3、9/13号)
- ・BPO報告(N0.177、178)

以上